現代ニッポン〝癒し〟の現場

〈第一一回〉

出口王仁三郎の啓示による〝御神水〟?!

小山　博史

振り子によるエネルギー判定と水へのエネルギー注入を行ない、その水を通して病気治療や心霊的な問題の相談に応じているという主婦がいる。その主婦は、大本教の出口王仁三郎から『飲み水を変え、心身を浄化しなければ、世の立直しの際に生き残れない』と、啓示を受けたのだという。そして、できるだけ多くの人に〝水の大切さ〟を理解してもらい、多くの難民の人々にもエネルギー水を提供していきたいという。

はたして、その特殊な〝水〟は、心霊問題に詳しい筆者の目にどのように映ったのか？

現代ニッポン“癒し”の現場

出口王仁三郎の啓示による〝御神水〟

出口王仁三郎

「1年半ほど前より、振り子によりエネルギー判定（プラス・マイナス）と水へのエネルギー注入を行うようになり、その水を通して病気治療や、心霊的な問題の相談に応じていました。私は、出口王仁三郎の啓示を受け、『飲み水を変え、心身を浄化しなければ、世の立直しの際に生き残れない』ので、できるだけ多くの人に〝水の大切さ〟を理解してもらうと共に、〝浄化〟したエネルギー水を提供していきたいと考えています」

と、東京・世田谷区在住の主婦、通称、〝美都（みづさ）〟さんは言う。このエネルギー水によって、何人もの病人が良くなっているというのだ。ちなみに、出口王仁三郎は、大本教の「聖師」と呼ばれた人物である。

確かに、世間一般の水への関心は高っている。巷には、アルカリ水、イオン水、ミネラルウォーター、ポウォーター、電器浄水器などの商品がかなり出回っていて、〝水市場〟と言われるほどの経済分野さえある。

美都さんのエネルギー水もそんな〝健康水〟の一つなのだろうか？

水を科学的に説明すると簡単である。水は水素二原子、酸素一原子からなる化合物だ。地球上の約七〇％は、海水、河、湖、地下水などの水で、人類を含めてすべての動植物の主成分も水である。人体では約七〇％、魚類は約八〇％、クラゲや水中の微生物では九五～九九％までが水からなっている。

「生命現象は水を媒体とした化学変化の複雑な組合せの現われである」とさえ言われる。

大本教の巨人・出口王仁三郎の啓示を受けなくとも、水の大切さは一般人にも理解できよう。

美都さんのエネルギー水は、機械や化合薬品を使った水ではなく、いわゆる意識を使った〝御神水〟のようなもので、今のところ科学的な根拠はない。一応、物理的な手は加えられていない。

「出口王仁三郎、スサノオノミコト、キリスト、の三人が一体化して、宇宙に扁在しています。それが私にいろいろ教えてくれるのです。水も、各家庭にある蛇口にエネルギーを入れます。蛇口を通る水はエネルギー水に変化し、半永久的に飲めるようになります。私が、その家庭に行く必要もありません。簡単な家の間取り図を送っていただいて、その間取り図を見て『人体に有害な物を取り除いてください。体にいいもの、宇宙エネルギーを入れてください』と、そう想うだけで、その瞬間、その蛇口を通る水は変化しております」

距離や場所は、一切問わない。神の意識の世界は、一瞬であり広大無辺である。筆者は、長年、心霊の取材を続けているが、想念の世界はそんなものだ。

しかるべき祈祷師、霊能者が遠隔地にいる患者に〝エネルギー〟を送ると、現実に病気が治癒した実例は多くある。残念ながら、そのメカニズムが、今の科学では分析できない。エネルギーを送る霊能者でさえ科学的説明ができないので「神仏の力」とか「宇宙エネルギーのため」というように理解していることが多い。

美都さんのエネルギー水も、それに近い。美都さん自身は科学分析に熱心である。本誌も協力し、いくつかの専門家による波動測定を行ったが、エネルギー注入前と後に、特異なデータは得られなかった（もちろん波動測定そのものにも、専門家による解釈が違っているため、科学的な原理、公式はない）。

保健所での簡単な水質検査でも、ミネラル成分が若干変化した程度だった。美都さん自身は、さらに詳細な水質検査を望んでいる。しかし、筆者の見方では科学分析での変化があまり見られないのが〝御神水〟の類であると思う。

美都さんは、北海道の生まれ。家族は、古くからの大本教信者であり、美都

美都さん
世の立直しに向けてエネルギー水を広く提供していきたいという

美都さんの心霊体験は多い。霊媒体質の多くは病弱であり、美都さんも幼児の時から虚弱体質であった。外に出ると、身体が疲れ、息も絶えだえの状態になる。普通の子供と遊ぶことができず、家内で寝たり起きたりの生活であった。

四歳の時、いわゆる臨死体験をした。呼吸困難に落ち入り、やがて完全に心臓が止った。

「〝危い〟というので、親戚中が私の枕元にやってきていました。その中に、出口王仁三郎のお弟子さんが来ていて、木製のハト笛を吹き続けてくれていたのです。もちろん私は〝死んだ〟状態なので、周囲の様子はわかりません。その時、私は、川が流れ太鼓橋がかかっている手前でたたずんでいました。橋の向う側に、とても綺麗な女性が立っていて、私は女性の方に行こうとしていました。すると、後方から、笛の音が鳴っているんです。女性の所へは行きたいが、笛の音も気になるので、ふっと振り返った瞬間、息を吹き返しました。生き返ったんです。私が行っていたのは、あの世の世界の〝三寸の川〟の手前でしょうね」

美都さんは生還したものの、病弱な体質は変わらなかった。人の見えない物が見え、人の性格や生死もわかる。しかし、周囲が怖がるので、黙っていることが多った。

病弱のため、小学校、中学校も人並みには通えなかったが、かろうじて卒業した。両親は、美都さんの体調をひどく心配し、〝あれをしてはいけない。これをしてはいけない〟と過保護に育てたのも、彼女にとっては苦痛であった。〝死んでもいいから外で自由に生きたい〟と思った。

美都さんは、一九歳で結婚、ようやく両親の元を離れる。上京し、二五歳からTV関係の仕事に従事した。その頃には、自然と病弱な体質は克復された。

「霊的な体質は変わりませんでした。その人のいろんな事がわかる。心や体調もわかる。ある人に『あなたの近くに人が死んでいますよ』と言うと、その人のアパートの下の部屋で、おじいさんが死んでいた、ということもありました」その後、脳腫傷と診断され、自力で治したり、離婚を経験した。

母子が自力で生きていくため、美都さんは手広く事業を展開したこともある。

「高校も、大学も出ていないのに、やろうと思えば全部できたんです。その頃、縁のあるお寺のお坊さんには『なぜ逃げるのだ。自分の行く道は決っているのさん自身、幼少の頃より霊媒体質であり、大本教の信仰の雰囲気で育った。大本教の出口王仁三郎との縁は深い。美都さんは親族からゆずり受けた、王仁三郎の遺髪の一部を、今もお守りとしている。

に、なぜジクザクと横道に入るのか』と言われました。でも、結果としては、すべて修行されていたんですねえ。いまは、再婚した主人の援助もあって、エネルギー水を世に広めようと考えています」

美都さんの能力が全開したのは、一年半前のことだ。あるTVの心霊番組を見ていて、意識がその番組の場面に飛び込んだという。

その後、いわゆる身体のチャクラ（身体の七つある霊的器官）が衝激とともに開き切ったという。天界（出口王仁三郎、キリスト、仏様など、いわゆる宇宙神）からの教えも受けるようになった。

「私にわからないことは、すべて上から教えてくれます。私にわかる信号で教えてくれるのです」

〝エネルギー水のお陰〟

「人間にとって、水は大切。その水を浄化することによって、それを飲む人の身心も浄化されるのです。だから、私は多くの人の利用する水を、浄化したいんです」

美都さんは、誰かに会う時、何事かをする時、必ずフロに入る。浄化された水の湯舟につかると、体内に宇宙エネルギーが大量に注がれるという。

「最初は、普通の水が、意識が高まるにつれてブルー、グリーンと変化し、やがて小金色になるんです」

口コミで、美都さんのエネルギー水を

求める人が増え始めた。

病気の人には、その人の病状に合わせたペットボトルにエネルギーを注入した水を与える。健康一般には、前述したように家の間取り図を元に、その家庭の蛇口に意識でエネルギーを注入する。

その効果は上々のようだ。

北海道登別市に住む、山本のり子さん（五五歳・主婦）は、長年、アレルギー体質に悩んでいた。顔や手足がカユく、熱をもってハレ上がるのだ。医者通いをしても治らなかった。

「去年五月末ごろ、美都さんのエネルギー水を使い始めました。カユミは数日で止まりました。元来、私はそのような不思議なことは信じないのですが、エネルギー水には驚きました。その後も続け、今はまったく正常です。それまでハンドクリームは手放せなかったのですが、今はエネルギー水のためか、クリームが必要なくなりました。蛇口にもエネルギーを入れてもらってますので、オフロで利用して、腰痛も治ってしまいました。もちろん、お水そのものも、カルキ臭がなく、おいしくなりました」（山本さん）

東京・世田谷の斎藤由規子さん（七〇歳、主婦）も、美都さんのエネルギー水によって、眼病が良くなったという。

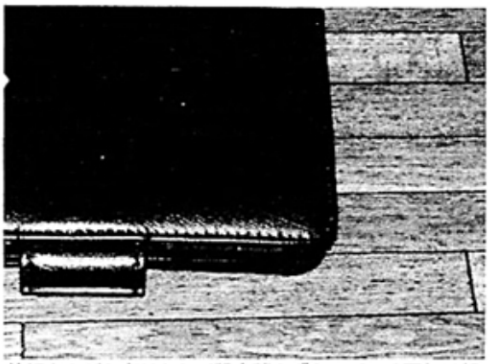
斎藤さんは、眼病のため、視力がほとんどない。眼球レンズを一ヶ月に一回入れかえるのだが、薬を利用しないと目が痛く、開けられない状態が続いた。昨年の八月からエネルギー水を使い、今は、痛みは取れ、薬を使わずに目が開くようになっている。

「ミニボトルを月に二本飲んでいて、蛇口にもエネルギーを注入してもらっています。以前は、何をやってもすぐダウンしていたが、体力もついてきたようです」（斎藤さん）

他にも、水島帝がハレ上がり、目の痛みに耐えかねた男性の例。美都さんに電話相談し、美都さんが意識を送り、二時間ぐらいで痛みが去った。その男性は、今もエネルギー水を利用しているという。

今まで美都さんの元には、百を超える相談があり、いずれも経過は順調だという。まだまだ詳細なデータが少ないため、効果を断定できないが、すくなくとも筆者が取材した前述の主婦は、〝エネルギー水のお陰〟と感謝した。

「なんとか科学的なデータをそろえ、世間の人に理解してもらいたい。できれば、老人ホームやルアンダの難民にも水を提供したい」と、美都さんは言う。しかし、科学分析にこだわらずともエネルギー水を利用し、その効果を実感した人が増えれば、おのずとエネルギー水は世間に浸透するだろう。



美都さんがお守りとして肌身離さずもっている王仁三郎の髪の毛

意識を送る美都さん 水質検査ではミネラル分が若干変化しており、保健所では「通常そのようなことはない」とのこと

小山博史（こやまひろし）

一九五二年香川県高松市生まれ。日本大学、拓殖大学を経て、日大大学院に進む。一九七九年から週刊誌記者となり、主に事件モノの取材に従事。一九八一年から写真週刊誌記者に転じ、政治・経済・芸能・事件取材で全国を渡り歩く。一九八五年勃発した山口組VS一和会抗争では、長期間ヤクザ取材に取り組む。仁侠、宗教を得意とするフリーライター。著書に「日本の霊能者」（徳間書店）がある。

【備考】 記事中にある 編集部における測定については
ミネラルウォーター（個人の瑞用に使用しているもの）を使って検査したものです。
水道水を使った検査ではありません。